

事例

障害者地域ピアサポート事業 (ピアサポーター養成講座)

夢の郷 (三重県)

〒514-0818 三重県津市城山一丁目8番16号

TEL 059-238-0303

活動の概要

サービスを受ける立場であった当事者が、サポートする立場に立つことで、生きがいや自分自身を振り返るきっかけを得ることができる。また、仲間との交流により、新しい自分や新しい価値観に気づき、今後の生活を豊かに質の高いものにしていく場でもある。自分に向き合い、自分も相手も豊かな生活を送るために活動するピアサポーターを養成していくものである。

法人の概要

夢の郷は、県立こころの医療センター（旧県立高茶屋病院）家族会「いすず会」が、我が子の社会復帰を願い平成5年4月にグループホーム「南風荘」を、平成5年10月に小規模作業所「いすず工房」を運営し、平成10年6月30日の社会福祉法人認可に至った。

平成11年4月精神障害者社会復帰施設生活訓練施設、通所授産施設、地域生活支援センターの3複合施設を建設し経営を始めた。

以降、グループホームの開設と増設をし、地域での障害者の生活支援に力を注いでいる。

- 経営施設数…12
- 法人全体の年間事業収入…172,089千円
- 主な経営施設
 - 精神障害者生活訓練施設
 - 通所授産施設
 - 精神障害者地域生活支援センター
 - 小規模通所授産施設
 - 小規模作業所
 - ケアホーム・グループホーム

実施施設の概要

- 施設名…アンダンテ
- 施設種別…精神障害者地域生活支援センター

施設の運営方針

地域での暮らしを希望する精神障害者に、住宅で自分らしい生活を実現するための支援を行う。生活相談、就労支援を含め、地域での日常生活支援を行い、在宅者の憩いの場として、地域交流する場としての機能も担う。

活動の内容

- 活動対象者…障害者、家族、関係者
- 活動の頻度…年4回 1回あたり6時間
- 年間の利用者…70名
- 活動開始年…2006年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

回復した当事者や家族には「障害があるために一生人の力を借りて生きていくのか」という嘆きと諦めがある。そこには、専門職がどのように共感しても届かないものがあるが、当事者が障害者や家族を支援する場合、健常者の専門職にはない素晴らしい発想がある。当事者自身の体験を活かした相談は、障害者や家族

に生きる力をつけていくものと考えたことから、ピアサポーター養成講座の実施に向けて活動が始まった。

■人材・賃金面等での工夫、苦慮

支援事業の計画に際し、

- ①企画にどれだけの人に参加してくれるか
- ②どのような講師にお願いすればいいのか
- ③資金が調達できるかどうか

について悩んだ。

まず、当事者自身が参加費を払って勉強に参加する気持ちがあるかどうか日々の活動の中で確認し意向を確認した。講師には全国的に活動している方に打診した。当事者自身が身近に感じている人に講師になってもらうことで研修に参加しやすいように配慮した。

資金面では独立行政法人福祉・医療機構の助成を得て高いハードルを越えることが出来た。

■利用者の声、地域の反応

- ・新しい発見があり、ピアサポートの考え方は、今後の人生を送る上で大切なものであると感じた。
- ・自分を振り返る機会になった。
- ・いろんな仲間と出会い、笑いのある、充実した時間を過ごすことができた。
- ・当事者の声の重みを感じ、新しい価値観にふれることができた。
- ・参加型であり、自分も語り、相手の語りに耳を傾け、仲間と交流できたのがよかった。
- ・参加することで、「元気」をもらったように感じた。
- ・今後、ステップアップした研修会を開催してほしい。

主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
謝礼金	544 千円
旅費	207 千円
諸費	781 千円
合計	1,533 千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	
・利用者負担額（利用料）	150 千円
・補助金収入 (補助金事業名：独立法人福祉医療機構助成金)	1,383 千円
・その他の収入	
合計	1,533 千円

活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動の苦労

- ・資金調達
- ・会場さがし
- ・講師の交渉

活動の成果

- ・仲間意識が芽生えてきた。
- ・障害理解を通して、日常会話の広がりができてきた。
- ・働くことも大切であるが、仲間と一緒に学習をすることの楽しみを発見した。

地域への影響

- ・施設の理解が広がった。
- ・いろいろな障害を持つ人の参加によりお互いの障害理解が生まれた。

今後の課題

- ・講習受講者が、ピアサポーターとして活動できるよう継続し応援していくこと。